



奈良ゆかり探訪

第6回

～知ればその国の人に話したくなる～

奈良は東アジアから伝わった文化遺産にまつわるゆかりや、世界の国・地域との意外と知られていないゆかりがたくさんあります。普段見慣れた奈良の風景には、おどろくようなエピソードがいっぱい。

今回は、奈良と台湾のゆかりを紹介します。

薬師寺に千年生きる台湾ヒノキ

千年かけて育った木は千年生きると言われ、ヒノキは古くから寺院、神社の建築には必須で利用されてきました。しかし、近年国内の大径材が不足していたため、1976年に白鳳時代様式として本格的に再建された金堂や、1981年に再建された西塔には台湾ヒノキが使用されました。再建を支えたこの台湾ヒノキは、樹齢千年を超える名木です。



▲薬師寺西塔



▲薬師寺金堂

奈良×台湾



▲土倉庄三郎翁銅像 (川上村)

奈良から伝えられた造林・水力発電技術

日本の造林王として知られる吉野郡川上村出身の土倉庄三郎どくらしうざぶろう(1840-1917)は、「土倉式造林法」を広めるため、台湾まで技術指導に赴きました。その後、息子の龍治郎りゅうじろう(1870-1938)がその技術により台北市郊外で吉野杉の植林をはじめ、現在では杉が台湾の主要な造林樹種の一つとなっています。

また、龍治郎は台湾で初めての水力発電所を建設したことで知られています。

問 県国際観光課 ☎0742-27-8553 FAX 0742-23-0620

ならの生きものたち

第19回



このコーナーでは、皆さんが身近に見かける動植物が、実はとっても珍しいものであったり、かつて普通に見られた動植物が、最近ではあまり見かけない大切にすべきものであったりすることを紹介しているのよ。奈良県の豊かな自然環境を大切にして、未来の子どもたちに残していきたいね。

Q & A

おしえて コマドリ先生!

Q:どんなチョウなの?

A:春にふ化した幼虫は、ミヤコアオイやヒメカンアオイを食べて育ち、初夏にさなぎになるの。そして、翌年の春、花の便りとともにチョウとなって姿を現すので、「春の女神」と呼ばれているわ。はねを広げた大きさは5~6cmよ。

ギフチョウ

【チョウ目アゲハチョウ科】



絶滅種 絶滅寸前種 絶滅危惧種 希少種

減少している要因の一つが、人間による過剰な採集なの。一人ひとりの行動が意外に大きな影響を与えているのね。もし見かけても、そっと見守っていてね。



コマドリ先生

Q:どんなところにいるの?

A:本州に分布する日本固有のチョウよ。奈良県では、奈良盆地周辺の山に生息しているんだけど、最近ではほとんど見られなくなっているの。

Q:なぜいなくなっているの?

A:里山林の荒廃でミヤコアオイなどの食草が減っていることが大きな原因みたいなの。それから、心ない人が過剰に採集しているという情報もあるわ。

Q:どうすればいいの?

A:ミヤコアオイなどが育ちやすいような生息環境を保全していくことが大切よ。みんなで協力して守ってきたいね。

問 県自然環境課 ☎0742-27-8757 FAX 0742-22-7060

奈良の生きもの情報調査 検索